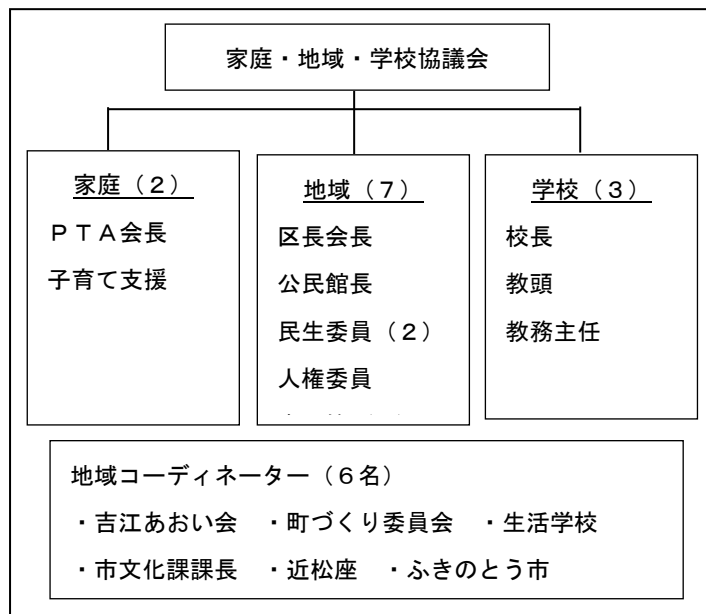


1 「家庭・地域・学校協議会」の設立と運営

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の開催計画

| | |
|------|-----------------------|
| 開催回数 | 年3回 |
| 開催日程 | 6月下旬 11月下旬 2月上旬 |

主な協議内容

- 学校経営方針・活動方針
- 学校の年間行事計画
- 授業への地域人材活用
- 家庭・地域・学校の連携による行事の計画
- 子どもの安全確保や災害時の体制
- 地域行事への児童の参加推進

(3) 協議会における成果と課題

協議会委員が、学校の状況を理解しやすいよう学校だよりで日頃の教育活動を紹介したり、授業参観の時間を設けたりした。「児童が生き生きと活動に取り組んでいる」「学校全体が落ち着いている」「廊下の掲示物も工夫されていて良い」との感想をいただいた。協議会委員の意見は教職員にもフィードバックし、教育活動のさらなる向上につなげることができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・ 地域の人材を積極的に活用し、教育内容の充実・活性化を図る。
- ・ 家庭・地域・学校の三者が、連携を深めながら各行事に取り組む。
- ・ 立待っ子を地域で見守る会や公民館と連携しながら、子どもの安全確保に努める。
- ・ 学校経営方針に沿った内容の学校評価を実施し、学校運営の改善を図る。
- ・ 学校での取組みを地区内外に普及する手だてについて検討する。

(2) 活動の実際

① 地域行事への参加推進

吉江あおい会の協力を得て、園芸委員が京都の葵祭で使う二葉葵を収穫した。1～3年生の児童は、公民館で活動しているちかまつ人形劇を鑑賞した。地域の民話「じゃぼんこう」の劇は、低学年の児童にもわかりやすく



<二葉葵の収穫 園芸委員>



<ちかまつ人形劇鑑賞会>

(様式1)

地域の歴史について触れる良い機会だった。

10月の近松まつりでは、昨年同様、吹奏楽部が出演し、地域の方々に喜んでもらうことができた。また、公民館でお茶を習っている児童がお点前を披露する場もあった。2月の百人一首大会には学校での予選を勝ち上がった児童が、公民館での決勝トーナメントに出場した。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーターの方と学校が協力し、積極的に授業に参加していただく場面を設定した。低学年では野菜作りや収穫した野菜を使っでの調理を行った。3年生では、市文化課や町づくり委員会の方の説明を聞きながら、地域の宝である近松門左衛門に縁のある立待地区の旧跡を実際に見学した。4年生では近松座の方が演じる人形浄瑠璃を鑑賞したり、人形扱いを体験したりした。

| <サツマイモ料理 1年生> | <吉川なすの栽培 2年生> | <人形浄瑠璃体験 3年生> | <近松の里めぐり 4年生> |
|---|---|--|---|
|  |  |  |  |

(4) 特に工夫した事項

- 立待地区で取り組んでいる二葉葵の栽培や、人形浄瑠璃伝承等の活動を通して、地域の歴史や文化に関心を持ち、ふるさとへの誇りと愛着を持つ子どもを育てる。
- 児童の活動は学校のホームページや学校だよりで発信するとともに、公民館行事等を中心に児童の地域参加を促し、地域の方との交流を深めていく。
- 家庭・地域・学校協議会での意見を丁寧に検討し、よりよい学校づくりにつなげていく。

(5) 成果と課題

2学期の学校保健委員会では、5年生が1年間取り組んだ「たちまち歯ッカソン」の発表を見ていただき、「聞いている人にわかるように伝えるための工夫が素晴らしかった」「発表にいたるまでの学習の過程で子どもが成長している」と高く評価していただいた。登下校時の見守り活動に参加している協議会委員の方からは、「交通安全への意識が低い」「朝のあいさつは少し元気がない」というご意見もあり、家庭や地域からの声として、真摯に受け止めたい。健やかなたちまちっ子の育成のために、家庭・地域・学校がそれぞれの立場でできることを考え、伝え合い、手を取り合っていくことが大切であると、次年度に向けて共通理解を図ることができた。